

各区地域包括ケアに関する取組

南 区

○概況

令和2年3月末現在

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 面積は7区中5番目であるが、人口は東区に次いで2番目に多い。人口密度は中央区、城南区に次ぐ3番目で、昼間人口に比べて夜間人口が多い「暮らしのまち」である。自然環境にも恵まれており、「ため池」は地域のオアシスとして散策コース等に活用されている。また、丘陵地が点在している。 【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率が全市平均より高く、校区別でみると大楠校区 15.0 %から弥永校区 35.1 %と差があり、各町内でも高齢化率の差が大きいところがある。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 医療機関は、基幹病院があること、精神科病院が5か所あること等が特徴である。また、三師会を中心に、医療と介護の多職種間での連携した取組等が活発に行われている。南区医師会は、在宅医療ネットワーク(平成11年～) 認知症診療ネットワーク(平成24年～)、区民と医師との会(昭和51年～) など取組が行われている。 地域包括支援センターが主催する圏域連携会議等を活用し、各圏域内で医療機関・介護サービス事業所を中心としたネットワークづくりが進み、地域の共助の取り組みとの連携も始まっている。	人口（人）	257,798
	高齢者数（人）	59,702
	高齢化率（%）	23.2%
	小学校区数	25
	いきいきセンター圏域数	11

○地域包括ケアに関する現状と課題

- ・在宅医療・介護連携の推進においては、各レベルの地域ケア会議での関係者間のネットワークづくりや各団体の連絡協議会・研修会における同職種間・多職種間の連携強化や資質向上を図っている。しかし、主要メンバーの意識やリーダーシップの向上はみられるものの、専門職・市民いずれも、地域包括ケアや在宅医療・介護への理解等が十分浸透していないため、今後も引き続き在宅医療や専門職の資質の向上及び市民啓発を行っていく必要がある。
- ・生活支援・介護予防部会における校区単位の共助の取り組みを進めるには、「担い手不足」「丘陵地等外出困難地域への送迎等支援」「身近に集える場所の確保」の課題検討が今後必要である。
- ・権利擁護については、早期の虐待の予防や解決のため、医療・介護専門職がスタッフから管理者まで虐待を理解し、予防や解決に向けて連携することが必要である。

1. 令和2年度取組の中で、特徴あるもの

取組内容

南区では、次により南区地域包括ケア深化を図り、南民の健康寿命の延伸や、地域での安心な生活を実現する。

1 多職種間の連携の推進 2 在宅医療推進のための支援(市民啓発・ネットワーク充実支援) 3 多職種専門職と地域住民の「きずな」づくり支援

1 多職種間の連携の推進

- ・ CM会やMSW会支援…専門研修周知や講師受諾，交流会にて支援
- ・ 事業所ネットワークの充実支援
- ・ 権利擁護多職種ミーティングによる多職種間の関係づくり

南区あんしん病院ネットワーク
(南区医師会ブロック支援病院)構想

2-(2)在宅医療推進のための支援(市民啓発)

- ①南区医師会による「区民と医師の会」未実施公民館開催への支援(多職種専門職と連携)
- ②区主催「もしバナゲーム」市民講座にてACP普及

南区いいともネット
(医療・介護事業所ネットワーク)

2-(1)在宅医療推進のための支援(ネットワーク充実支援)

- ・ 圏域連携会議や多職種連携研修会への支援…在宅支援をテーマとした模擬カンファ等での資質向上や入退院連携促進

生活支援
介護予防

3 多職種専門職と地域住民の「きずな」づくり支援

- ・ 住民と医療介護事業所ネットワークの、健康講座協力等のマッチング支援(個別支援会議や高齢者地域支援会議を活用)
- ・ よかトレ実践ステーション支援 等

2. 令和元年度の取組状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

・内容は、認知症で徘徊、保護を繰り返し、食事の管理が不十分のため、施設入所に向けて、支援方針の検討や認知症のため金銭管理ができないため、親族に、成年後見制度利用を勧めるも拒否の高齢者への対応等（内訳：認知症 63%.単身高齢者 48%.精神疾患 17%.地域役員の参加 45%）

個別支援会議開催状況 ・会議回数：87回

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

- 1)南区役所といまいきセンターふくおか主催で校区ごとに高齢者地域支援会議を開催
 - ・高齢になっても住み慣れた校区で安心して暮らせる健康づくりのために各校区で「よかトレ」、「健康づくり」、「介護予防」、「在宅医療」などをテーマに選び実施するほか各地域の課題解決に向けた取り組みを検討した。
- 2)「南区いともネット」各事業所ネットワークの地域貢献の取り組み
 - ・「出前講座、認知症サポーター養成講座」の開催
 - ・「認知症行方不明者の声掛け訓練や捜索訓練」の協力（弥永校区・柏原校区・長丘校区で実施）



運動指導を理学療法士が協力



認知症行方不明者声掛け・捜索訓練

健康なまちづくり懇談会
 高齢になっても住み慣れた校区で安心して暮らすための健康づくりを目指して
 ～「よかトレ」を実践して 元気、笑顔、やさしいっばい～

「健康なまちづくり懇談会」の意見交換を活用して、健康づくり・介護予防について検討した。

高齢者地域支援会議 ・会議開催校区（24校区、延べ回数：38回）
 開催状況 ・検討内容：現状、課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策検討、取組開始

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組



※圏域連携会議で、「在宅医療」をテーマにして、開催した校区では、公民館でも実施し、継続予定。

- 【出席者】
 医療と介護の専門職、テーマにより地域から、民生委員・児童委員、自治協議会など。
- 【具体的内容】
- ・認知症でキーパーソン不在、障がいや疾患を抱えた家族に対して、専門職の役割や連携について、ACPIについての理解を深め、本人や家族の思いを尊重したケアを、連携して行えるように「もしばなゲーム」を実施、医療・介護連携のため「症例を用いたグループワーク（退院時模擬カンファレンス）」を実施
 - 【会議後の課題解決に向けた取り組み】
 - ・大池・若久事業所等ネットワーク「輝き隊」が発足。
 - ・区の薬剤師会と連携し、「気になる高齢者のチェックシート」を用いて虚弱高齢者の把握及び支援等。

圏域連携会議 ・会議回数：10回
 開催状況 ・検討内容：役割等の情報交換、地域課題の検討、多職種間の連携強化

④ 区レベルの取組（特徴ある取組）

- ・地域包括ケア推進会議では、保健福祉センターの取組み・各種地域ケア会議・三部会について課題や情報、全市の取組進捗状況を共有した。
- ・在宅医療・介護部会では、在宅医療・介護に関して抽出された課題、救急搬送医療情報シートの今後の展開、各団体における取組状況等について意見交換を行った。
- ・権利擁護部会では、南区及び包括の取組状況、各団体の取組状況、全国及び南区の権利擁護統計により意見交換を行い、課題を共有した。また、権利擁護部会構成団体による事例検討研修会として「権利擁護のための多職種ミーティング」を2回開催、企画会議1回を実施した。
- ・生活支援・介護予防部会では介護予防に向けた取り組みを検討したほか、地域と事業所ネットワークの連携事例を紹介した。

区地域包括ケア推進会議開催状況 ・区地域包括ケア推進会議：1回
 ・部会 ①在宅医療・介護部会：2回、②権利擁護部会：1回、③生活支援・介護予防部会：1回
 ・検討結果等：市に報告する課題として「在宅医療の市民向け普及・啓発の強化」「高齢者虐待防止のため専門職への啓発強化」等

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組、事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
多職種連携研修会	南区医師会が中心となり「多職種連携研修会」を年4回、懇親会を1回、開催した。テーマは、「統計データから考えるこれからの地域包括ケア」「認知症のケアを理解する」「福岡病院の地域包括ケア病棟について、訪問診療の実際～在宅療養支援診療所16年目を迎えて～、症例を用いたグループワーク」「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて」等であった。
市民向け公開講演会の開催	南区医師会が中心となり「在宅医療の市民啓発（区民と医師との会：校区単位で、医師と多職種のペアで、年6回開催＊1回はコロナで中止）を実施し、287名の参加があった。
認知症診療ネットワーク研修会	南区医師会が中心となり「認知症診療ネットワーク研修会」を年1回開催した。
同一業種による連絡会開催 ①訪問看護ステーション ②介護支援専門員	①訪問看護ステーション連絡協議会の継続支援。 ②南区ささえあいの会への支援、世話人会への参加等。
事業所ネットワークの活動	新たに1か所の事業所ネットワークが立ち上げ準備中であり、現在15か所が活動中である。また、南区内の事業所ネットワークの連合体「南区いともネット」を結成。情報交換などを行い、圏域を越えた支援を目指す取り組みも始めている。